

## 2014（平成26年度）研究所報告

## 1. 組織

所長	松川 節
主事	藤田 義孝
委員	高井 康弘（大学院文学研究科長）
	滝川 義弘（教育研究支援部長）
	重松 康希（教育研究支援課長）
	乾 源俊（教授・中国文学）
	古川 哲史（教授・歴史学／比較文化・社会論）
	織田 顕祐（教授・仏教学）
	山本 和彦（教授・仏教学）
	阿部 利洋（准教授・社会学）
	采翠 晃（准教授・仏教学）
	藤原 正寿（短期大学部准教授・真宗学）

## 2. 研究組織

〔特定研究〕

**教如上人研究**

研究課題	真宗大谷派・東本願寺開祖である教如上人に関わる史料の調査と研究
研究代表者	草野 顕之（学長・教授・日本仏教史学）
研究員	福島 栄寿（チーフ・准教授・近代日本仏教史・近代日本思想史）
	平野 寿則（准教授・日本近世史・近世仏教史・真宗史）
	川端 泰幸（任期制講師・日本中世史）
嘱託研究員	大桑 齊（本学名誉教授）

〔指定研究〕

**清沢満之研究**

研究課題	清沢満之の生涯と思想の研究を更に進め、その成果を『清沢満之全集』の補遺として、発刊する。
研究代表者	藤原 正寿
研究員	藤原 正寿（短期大学部准教授・真宗学）
	一楽 真（教授・真宗学）
	福島 栄寿（准教授・近代日本仏教史・近代日本思想史）
	西本 祐攝（短期大学部講師・真宗学）
嘱託研究員	安富 信哉（本学名誉教授）

村山 保史 (教授・西洋哲学・日本哲学)  
 名畑直日兎 (真宗大谷派教学研究員)  
 研究補助員(RA) 村上 良顕 (博士後期課程第2学年)  
 石原 樹 (博士後期課程第1学年)

### 国際仏教研究

研究課題 諸外国における仏教研究の動向の把握と資料の収集・整理・公開

研究代表者 井上 尚実

研究員 井上 尚実 (准教授・真宗学)

Robert F. Rhodes (教授・仏教学)

新田 智通 (講師・仏教学)

藤枝 真 (准教授・宗教学・哲学)

松浦 典弘 (准教授・東洋史学)

嘱託研究員 James C. Dobbins (オーバーリン大学教授)

Mark L. Blum (カリフォルニア大学バークレー校教授)

Paul Watt (早稲田大学留学センター教授)

羽田 信生 (毎田周一センター所長)

阿満 道尋 (アラスカ州立大学アンカレッジ校准教授)

Michael J. Conway (本学非常勤講師)

Michael Pye (マールブルク大学名誉教授)

研究補助員(RA) 梶 哲也 (博士後期課程第1学年)

林 研 (博士後期課程第3学年) (～2014年9月30日)

味村 考祐 (博士後期課程第3学年) (2014年10月1日～)

尾崎 俊文 (博士後期課程第3学年)

LAMA O ZHUOMA (博士後期課程第2学年)

(2014年10月1日～ 西藏文献研究から所属変更)

### 西藏文献研究 (2014年9月30日付休班)

研究課題 チベット語文献及びパーリ語貝葉写本のデータベース化

研究代表者 福田 洋一

研究員 福田 洋一 (教授・仏教学)

武田 和哉 (准教授・歴史学・考古学・人文情報学)

嘱託研究員 白館 戒雲 (本学名誉教授・特別研究員)

デルゲルジャルガル (モンゴル国立大学社会科学部歴史学科長・准教授)

清水 洋平 (本学非常勤講師・特別研究員)

石田 尚敬 (東京大学大学院人文社会系研究科特任研究員)

高本 康子 (北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター学術研究員)

西沢 史仁 (東京大学大学院人文社会系研究科研究員)  
伴 真一朗 (博士後期課程修了)  
舟橋 智哉 (博士後期課程修了)

研究補助員(RA) 渡邊 温子 (博士後期課程第3学年)  
LAMA O ZHUOMA (博士後期課程第2学年)

**ベトナム仏教研究** (2014年10月1日 国際仏教研究から独立)

研究課題 ベトナム社会科学アカデミー宗教研究院との共同研究

研究代表者 織田 顕祐

研究員 織田 顕祐 (教授・仏教学)  
浅見直一郎 (教授・東洋史学)  
箕浦 暁雄 (准教授・仏教学)

嘱託研究員 桃木 至朗 (大阪大学教授)

大西 和彦 (本学客員研究員・ベトナム社会科学アカデミー宗教研  
究院客員研究員)

福島 重 (本学非常勤講師)

[資料室]

**大谷大学史資料室**

研究課題 大学史関係資料の収集・整理

室長 藤田 義孝 (研究所主事・准教授・フランス文学)

嘱託研究員 戸次 顕彰 (本学非常勤講師)

研究補助員(RA) 松岡 智美 (博士後期課程第3学年)

渡邊 温子 (博士後期課程第3学年)

(2014年10月1日～ 西藏文献研究から所属変更)

**東本願寺海外布教資料室**

研究課題 大谷大学図書館所蔵「東本願寺旧蔵資料」海外布教関係部分の整理

室長 桂華 淳祥 (教授・東洋史学)

嘱託研究員 長谷川雄高 (博士後期課程修了)

研究補助員(RA) 濱野 亮介 (博士後期課程第3学年)

**デジタル・アーカイブ資料室**

研究課題 大谷大学所蔵貴重資料のデジタル・アーカイブの構築

室長 藤田 義孝 (研究所主事・准教授・フランス文学)

## 〔一般研究／共同研究〕

研究課題 新出土仏教遺物と文献史料の統合による13～17世紀北アジア史の再構築

研究代表者 松川 節

研究員 松川 節（教授・モンゴル学）  
三宅伸一郎（准教授・チベット学）

協同研究員 清水奈都紀（奈良大学非常勤講師）

研究協力員（支援） 伴 真一朗（博士後期課程修了）

研究課題 モンゴル国カラコルム博物館における歴史研究を基軸とした情報化と国際協働の推進

研究代表者 松川 節

研究員 松川 節（教授・モンゴル学）

協同研究員 清水奈都紀（奈良大学非常勤講師）

二神 葉子（国立文化財機構東京文化財研究所情報システム研究室長）

研究課題 デジタルアーカイブ技術による契丹国の歴史考古言語資料の復元的研究と集成

研究代表者 武田 和哉

研究員 武田 和哉（准教授・歴史学・考古学・人文情報学）  
松川 節（教授・モンゴル学）

協同研究員 町田 吉隆（神戸市立工業高等専門学校教授）

等々力政彦（北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター客員教授）

高橋 学而（福岡文化学園博多女子高等学校教諭）

武内 康則（京都大学白眉センター助教）

藤原 崇人（関西大学東西学術研究所非常勤研究員）

橘堂 晃一（龍谷大学・奈良大学非常勤講師）

福井 敏（本学非常勤講師）

研究課題 アブラナ科植物の伝播・栽培・食文化史に関する領域融合的研究

研究代表者 武田 和哉

研究員 武田 和哉（准教授・歴史学・考古学・人文情報学）  
三宅伸一郎（准教授・チベット学）

協同研究員 渡辺 正夫（東北大学大学院生命科学研究科教授）

鳥山 欽哉（東北大学大学院農学研究科教授）

吉川 真司（京都大学大学院文学研究科教授）

横内 裕人 (京都府立大学文学部准教授)  
 江川 式部 (明治大学商学部兼任講師)  
 等々力政彦 (北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター客員教授)

研究課題 日本における西洋哲学の初期受容—フェノロサの東大時代未公開講義録の翻刻・翻訳—

研究代表者 村山 保史

研究員 村山 保史 (教授・西洋哲学・日本哲学)

朴 一功 (教授・西洋古代哲学)

渡辺 啓真 (教授・倫理学)

協同研究員 池上 哲司 (本学名誉教授)

藤田 正勝 (京都大学大学院教授)

竹花 洋佑 (本学非常勤講師・特別研究員)

西尾 浩二 (本学非常勤講師)

Michael J. Conway (本学非常勤講師)

研究課題 スティラマティの俱舎論注釈書『真実義』梵文写本第一章の研究

研究代表者 小谷信千代

研究員 小谷信千代 (本学名誉教授・特別研究員)

協同研究員 秋本 勝 (京都女子大学教授)

福田 琢 (同朋大学教授)

本庄 良文 (佛教大学教授)

松田 和信 (佛教大学教授)

加納 和雄 (高野山大学准教授)

箕浦 暁雄 (准教授・仏教学)

上野 牧生 (短期大学部助教・仏教学)

松下 俊英 (本学非常勤講師・特別研究員)

研究課題 紋章との比較による系譜の図像化規則とその構造分析

研究代表者 柴田みゆき

研究員 柴田みゆき (准教授・情報処理学)

三浦誉史加 (准教授・英文学・英米文化)

協同研究員 松浦 亨 (北海道大学病院企画マネジメント部准教授)

杉山 正治 (立命館大学総合科学技術研究機構 客員研究員)

生田 敦司 (本学非常勤講師)

清水 利明 (一般財団法人比較法研究センター特別研究員)

横澤 大典 (本学非常勤講師)

平塚 聡（立命館大学情報理工学部知能情報学科研修生）  
 齋藤 晋（国土利用再編研究所副理事長）

## 〔一般研究／個人研究〕

研究課題 日本で発見されたオリヤー語『マハーバーラタ』「津島貝葉」の校訂テキスト作成

研究代表者 Dash Shobha Rani（准教授・インド学・仏教学）

研究課題 清代生態環境档案を用いた西北開発における環境認識と技術的対応に関する研究

研究代表者 井黒 忍（講師・東洋史学）

研究課題 触法知的障害者の更生と地域生活定着を促進するピアサポートプログラムの開発と評価

研究代表者 脇中 洋（教授・発達心理学・法心理学）

研究課題 バガヴァティー・アーラーダナーの新版校訂本作成と全訳によるジャイナ教の断食死研究

研究代表者 河崎 豊（本学非常勤講師・特別研究員）

研究課題 タイ国を中心とする東南アジア撰述仏教説話写本の研究

研究代表者 清水 洋平（本学非常勤講師・特別研究員）

研究課題 後期田辺哲学における象徴概念の研究

研究代表者 竹花 洋佑（本学非常勤講師・特別研究員）

研究課題 「宗教間体験の現象学」構築のための基礎的研究

研究代表者 古荘 匡義（任期制助教・特別研究員）

研究課題 ディケンズと絵画

研究代表者 木島菜菜子（任期制助教・特別研究員）

研究課題 グローバル化時代における「人権」概念とセクシュアル・マイノリティの包摂

研究代表者 赤枝香奈子（任期制講師・社会学）

研究課題 共感覚の進化的基盤を探る

研究代表者 高橋 真（講師・比較認知科学）

- 研究課題 インド・チベットにおける般若学の研究  
研究代表者 白館 戒雲（本学名誉教授・特別研究員）
- 研究課題 『中辺分別論』の未解読チベット語註釈写本の研究  
研究代表者 松下 俊英（本学非常勤講師・特別研究員）
- 研究課題 初期チベット論理学成立史解明のための基礎研究  
研究代表者 福田 洋一（教授・仏教学）
- 研究課題 移行期正義の社会的影響に関する比較社会学的研究  
研究代表者 阿部 利洋（准教授・社会学）
- 研究課題 保育カンファレンスが保育者の「同僚性」に与える効果の縦断的追跡研究  
研究代表者 黒澤 祐介（本学非常勤講師・特別研究員）（2014年9月30日付廃止）
- 研究課題 古代中国文献に関する表現形式に基づく評価基準の構築  
研究代表者 鈴木 達明（本学非常勤講師・特別研究員）
- 研究課題 生業の域内多様度とその形成過程：東南アジア大陸部におけるモン村落の事例比較  
研究代表者 中井 信介（任期制助教・特別研究員）
- 研究課題 ハンス・リップス解釈学におけるパトスを基盤とした知識教授理論の研究  
研究代表者 田中 潤一（准教授・教育学・教育哲学）
- 研究課題 9.11後戦争形成過程の宗教社会学的研究  
研究代表者 飯田 剛史（教授・社会学）
- 研究課題 低酸素環境下登坂歩行運動における登山熟練者呼吸スキルの解明  
研究代表者 井上 摩紀（准教授・体育学）

### 3. 指定研究の動向

#### 教如上人研究

本研究では、「真宗大谷派・東本願寺開祖である教如上人に関わる史料の調査と研究」を課題として調査・研究を進めている。

真宗大谷派・東本願寺開祖ともいふべき位置にある教如上人（永禄元年=1558

～慶長19年＝1614）の研究は、「大谷派なる精神」、大谷派存立の理念と存在理由を明らかにする意義を有している。

こうした意義を持つ本研究では、教如上人に関する史料の全面的・組織的な調査を実施し、それらを体系的に整理して、将来的には出版・公刊し、広く内外に成果を問うことを目的・目標としている。

具体的には、1. 教如上人授与物、2. 消息類、3. 聖教文言掛幅、4. 開板聖教（正信偈三帖和讃・御文など）、5. 言行を伝える覚書・日記類などの諸史料を調査・研究の対象とし、これまでに公刊されている史料集や図録類などからの収集を進めるとともに、寺院調査も行い、そこで得られた情報をデータベースとしてまとめ、画像データ、史料翻刻データなども蓄積している。2014年度の研究活動とその成果については以下のとおりである。

#### 〈研究会〉

2014年度は6回の研究会を開催した。はじめの2回は教如上人史料の調査研究を具体的にどのように進めていくのかについて、提案・検討がなされた。公刊されている史料集や図録類、新たに調査で得られたデータのいずれにおいても、①名称・年月日・差出・宛名・法量・備考などの基本項目を表計算ソフトに入力し、データベースを作成する。②史料ごとに、文字情報を翻刻。③画像のあるものはスキャニングしてデータ保存し、調査したものについてはデジタルカメラで撮影をして、画像データを整理・保存するという方針が決定され、その方向で調査・研究を進めて行くこととなった。第3回の研究会以降は、作業によって蓄積されたデータベース、翻刻データなどをもとに、研究員・嘱託研究員による研究成果の報告・検討が行われた。特に、調査に赴いて得られた成果については、新たな発見があるなど、教如上人研究の持つ可能性が確認された。

#### 〈調査〉

2014年度は、5回の史料調査を実施した。第1回目は善重寺（岐阜県揖斐川町）所蔵の教如上人寿像調査で、教如上人自筆の銘や讃文を確認することができた。

また、複数回赴いた浄泉寺（京都市中京区）の調査でも、教如上人寿像の調書作成、撮影を行うとともに、寺院成立にまつわる由緒書などの調査・撮影を行った。

年度末の3月には、教如上人とゆかりの深い光徳寺（滋賀県大津市）でも調査を実施した。ここではまだ東本願寺が成立する以前、教如上人が公的には隠居中であった慶長7年（1602）に授与した寿像や由緒書など、教如上人にまつわる数多くの法宝物を調査することができた。

なお、浄泉寺・光徳寺の調査成果については、『真宗大谷派浄泉寺の歴史と法宝物』、『朝陽山光徳寺の歴史と法宝物』と題する調査報告書にまとめた。

### 清沢満之研究

2014年度に発足した本研究班は、本学・学祖である清沢満之の生涯と思想に関する研究調査を行い、その成果をすでに刊行されている大谷大学編『清沢満之全集』（岩波書店）を補完する史料として公にすることを目的とするものである。本年度は、①2003年度まで活動し、『清沢満之全集』（岩波書店）を編纂した清沢満之の研究班（以下：旧研究班）の資料の収集・整理、②関根仁應宛の清沢満之書簡及び清沢満之講義ノート（長徳寺蔵）の調査収集・翻刻の二点を柱として研究を行った。

まず、①旧研究班の資料の収集・整理について、旧研究班の活動終了後は大谷大学史資料室に移行・保管されていたデータを引継ぎ、そのデータの本研究班での情報共有、補遺出版に向けての問題点の確認等のため、12月1日(月)に研究会を開催した。この研究会は旧研究班にも携わっていた西本研究員による発表形式で行われ、大谷大学編『清沢満之全集』 発刊の経緯の確認、未掲載資料の確認、底本・依拠本の再確認等を行った。そして、研究会で検討された事項を参考に、分散していたデータの整理や確認を現在も継続的に行っている。

また、②長徳寺蔵資料の調査収集・翻刻について、6月27日(金)から28日(土)、7月11日(金)から13日(日)の二度にわたって新潟県新発田市の長徳寺に保管されている関根仁應宛の清沢満之書簡及び清沢満之講義ノートを、『関根仁應日誌』の刊行の際にすでにこれら資料を整理していた真宗大谷派教学研究所の協力の下、整理・資料撮影を行った。この際、本研究班では講義録である「哲学史」、「近代史」、「今世哲学史」、「倫理学史」、「近世倫理学史」の五点の撮影を行った。その後、これらの資料は二名の研究補助者によって翻刻作業を行った。この翻刻作業は現在終了し、一次校正を行っている。なお、書簡の撮影は教学研究所がすでに行っているため、長徳寺、教学研究所との協議の上、公にする方法を探っていく予定である。

その他、本年度は求道会館所蔵の近角常観宛の清沢満之書簡の確認、親鸞仏教センター主催の研究交流会への出席、随時ミーティングを開催する等、補完史料の公開に向けて上記の二点以外の研究活動も適宜行った。

### 国際仏教研究

本研究は、諸外国における仏教を中心とする宗教研究の動向を把握するとともに、国際社会に対して本学の真宗・仏教研究を公開することを目的としている。地域・言語別に英米班、ドイツ・フランス班、東アジア班の三班に分かれて研究活動を進めた。各班の研究成果の概要は以下の通りである。

#### 《英米班》

#### I. 翻訳研究活動

##### (1) 『浄土の真宗』 『宗門の歩み』 英訳出版への協力

阿満道尋嘱託研究員（アラスカ州立大学アンカレッジ校准教授）を中心に、真

宗大谷派北米開教区真宗センター（Shinshū Center of America）から出版予定の大谷派教師課程教科書『浄土の真宗』『宗門の歩み』英語版について、前年度に引き続き編集校正作業に協力した。

(2) 次期翻訳研究プロジェクトの計画

次期翻訳研究プロジェクトとして中長期的に英訳研究に取り組むべきテキスト選定を進めたが、最終的な翻訳テキストの決定は2015年度に持ち越すことになった。

II. 国際学会・シンポジウム関係

(1) 国際学会への参加・研究発表

① 第17回 国際仏教学会(IABS)大会

8月18日(月)～23日(土)の6日間、オーストリアのウィーン大学で開催された国際仏教学会大会にロバート・F・ローズ研究員、井上尚実研究員、マイケル・コンウェイ嘱託研究員が参加し、研究発表を行った。(詳細は『所報』65号所収のローズ研究員による報告を参照)。

② 第14回 ヨーロッパ日本研究協会(EAJS)国際会議

8月27日(水)～30日(土)の4日間、スロヴェニアのリュブリャナ大学で開催されたEAJS国際会議にロバート・F・ローズ研究員、井上尚実研究員、マイケル・コンウェイ嘱託研究員、阿満道尋嘱託研究員が参加し、宗教部会において大谷大学パネル「20世紀における親鸞像：真宗教団の内側と外側からの視座」

“Images of Shinran in Twentieth Century Japan: Perspectives from Inside and Outside the Shin Denomination” の発表を行った。(詳細は『所報』65号所収報告を参照)。

③ アメリカ宗教学会(AAR)2014年大会

11月22日(土)～25日(火)の4日間、カリフォルニア州サンディエゴで開催された年次大会にマイケル・コンウェイ嘱託研究員が参加して仏教研究の動向について情報を収集し、研究者と交流を深めた。

(2) シンポジウム開催の準備

① Cultivating Spirituality: A Modern Shin Buddhist Anthology 出版記念シンポジウム

2015年6月26日(金)・27日(土)の2日間、大谷大学メディアホールを会場に開催される近代学術アンソロジー英訳出版記念シンポジウムの準備を進めた。

② エトヴェシ・ロラード大学(ELTE)と共催の国際仏教シンポジウム

2016年度に予定されているELTEと共催の第2回シンポジウムの計画を進めた。「仏陀の言葉の解釈」テーマに、5月中の2日間開催する方向で具体的な検討に入った。

III. 公開講演会の開催

2014年度は、以下のような公開講演会を開催した。(会場はいずれも本学響流館マルチメディア演習室)

- (1) 2014年6月24日(火) 16:20 ~ 17:50  
 講師: Justin McDaniel ジャスティン・マクダニエル氏 (ペンシルバニア大学准教授)  
 講題: “Recent Investigations into Thai Manuscripts held in Western Collections” 「欧米に所蔵されるタイ写本に関する最近の調査研究」
- (2) 2014年10月31日(金) 16:20 ~ 17:50  
 講師: Aaron A. Proffitt アーロン・A・プロフィット氏 (ミシガン大学 Ph. D. Candidate)  
 講題: 中世仏教における「秘密念仏思想」: 阿闍梨道範と密教浄土教文化 (日本語による講演)
- (3) 2014年11月14日(金) 16:20 ~ 17:50  
 講師: Jessica L. Main ジェシカ・L・メイン氏 (プリティッシュ・コロンビア大学准教授)  
 講題: Ōtani Sukauto and Honganji Sukauto: The Religious Life of Semi-Autonomous and Sectarian Shin Buddhist Scouting Movements 「大谷スカウトと本願寺スカウト: 浄土真宗スカウト運動における半自治的、宗派的な宗教生活」

#### IV. その他

本研究が収集してきた未整理の図書の整理・公開については、前年度に引き続き、研究所所蔵の欧文仏教雑誌とデータ・ベースを照合し、欠本や図書館で継続購入している雑誌との重複などについて整理する作業を進めた。

#### 《ドイツ・フランス班》

##### I. シンポジウムの論文化 (刊行)

2010年にフランス国立高等研究院においておこなわれたシンポジウム「フランスと日本におけるナショナル・アイデンティティと宗教」で発表した原稿を刊行する準備が進んでいる。近日、フランスの出版社 Brepols から出版される予定である。

##### II. 翻訳

マルブルク大学 D・コルシュ教授の『マルティン・ルター入門』の訳文の検討を継続して行っている。

#### 《東アジア班》

中国社会科学院歴史研究所とは2010年に学術交流協定を締結し、共同研究「中国華北・東北・東部モンゴル地域の宗教と文化」をテーマとして研究活動を推進してきた。2014年度も相互に研究者を派遣して共同研究を行い、学術交流を深めた。また、2014年度は協定の最終年度に当たるため、本学からの派遣の際に中

国社会科学院歴史研究所にて協定の延長を行った。

① 2014年11月17日(月)～ 11月18日(火)、中国社会科学院 歴史研究所より王啓発研究員・朱昌栄副研究員・雷聞研究員の3名を招聘し、本学にて研究活動を行うとともに、公開研究会を開催した。講師と講題は下記の通りである。

11月18日(火) 13:00～ 15:00 於マルチメディア演習室（響流館3階）

王啓発『『牟子理惑論』 中に見える老子』

朱昌栄「程朱理学と清初の社会再建」

雷聞「太清宮道士呉善経と中唐長安道教」

② 2015年1月24日(土)～ 1月28日(火)、松川節教授（真宗総合研究所長）、松浦典弘准教授（国際仏教研究研究員）、村岡倫龍谷大学教授が中国社会科学院歴史研究所を訪問し、下記の講題にて研究発表を行った。研究会開催に先立ち、松川真宗総合研究所長とト憲群中国社会科学院歴史研究所所長との間で交流協定の更新（2015年度より5年間）が行われた。

1月27日(火) 9:00～ 11:00 於中国社会科学院歴史研究所

松浦典弘「新出の唐代尼僧墓誌について」

村岡倫「大谷探検隊の記録から見る20世紀初頭のエルデネゾー寺院」

松川節「モンゴル仏典研究の現状と展望」

## 西藏文献研究

本研究班は、2014年度は10月1日から3月31日まで休班となったため、4月1日から9月30日までの経過を以下に報告する。

### 1. チベット語文献の電子テキスト化

シェラブジンパ（17世紀後半）の『中観学説決択』（大谷蔵外No.13949-13954）について、電子テキスト化の校訂・編集作業を進め、第一章冒頭部分を完了した。『サンブ寺史（明鏡史）』（大谷蔵外No.13981）に関して、西沢史仁（嘱託研究員）が校訂テキストの再検討と編集作業を実施した。

### 2. パーリ語貝葉写本のデジタル化

清水洋平・舟橋智哉（ともに嘱託研究員）により、前年度3月に実施した稀観写本調査（於バンコク：ワット・ポー）の結果をもとに、大谷大学所蔵パーリ語貝葉写本（大谷貝葉）の稀観文献の抽出作業を行った。また、タイ王国文化省芸術局と九州国立博物館が主導する日タイ学術交流に係るタイ関係文化財調査への協力を行うため、大谷貝葉の元梱包布地を中心としたデジタルデータの整理を行った。上記した文化財調査メンバーが来学した折（6月14日）、清水洋平がそのデジタルデータをもとに対応し、調査協力を行った。

### 3. 寺本婉雅の日記の翻刻

宗林寺および村岡家より借用中の寺本婉雅関係資料のうち、『西藏探検日誌』在北京之部（2冊、1901～1902年にかけての日記）の第1冊目の翻刻を実施した。翻刻は、高本康子（嘱託研究員）が担当した。

### 4. モンゴル国立大学との学術交流協定に伴う調査等

2013年にモンゴル国立大学社会学部（当時の名称、現在は総合科学学部と改称）との間で締結された学術交流協定に基づき、共同研究「モンゴルにおける仏教の後期発展期（13世紀～17世紀）の仏教寺院の考古学・歴史学・宗教学的研究」活動を行った。2年目となる当年は、松川節所長と武田和哉（研究員）が参加して、U.エルデネバト氏（モンゴル国立大学社会科学部考古学科教授）とともに、4月26日～5月1日の期間で実施した。

モンゴル国ヘンティ県所在のバルスホト I 遺跡所在の仏塔、同県都チンギスホト市内所在のグンドゥガワルリン寺、セレンゲ県内所在のアマルバヤスガラント寺を訪問し、共同調査を実施した。バルスホト I 遺跡所在の仏塔については、ステレオ写真撮影を実施し、帰国後に立面図の図化を行った。また、調査の詳細については、武田が本研究所『所報』No.65に報告した。

続いて、6月22日～29日の日程で、同大学歴史学科長の P. デルゲルジャルガル氏（嘱託研究員）を本学にお招きし、共同研究を実施した。その際、本研究所にて公開講演会を開催した。詳細は下記の通りである。

#### 公開講演会日時・場所

6月25日(木) 16:30～18:00 響流館4階会議室

P.デルゲルジャルガル氏

「トルコ民族国家時代のモンゴル諸集団の出自と比定（紀元6～10世紀）」

### ベトナム仏教研究

本研究は、ベトナム社会主義共和国のベトナム社会科学アカデミー宗教研究院との間で締結された協定に基づき推進する共同研究である。2014年度は主に『日本仏教概説』（仮称）の執筆とベトナム仏教寺院調査を行った。

2014年8月7日(木)には、『日本仏教概説』執筆のための連絡会を開催した。執筆において重視する視点と方向性について意見交換した。出席者は、織田顕祐（研究代表者）・箕浦暁雄（研究員）に加え、協力者のロバート F. ローズ・宮崎健司・平野寿則・福島栄寿の六名であった。川端泰幸とは後日別途意見交換を行った。

2014年9月18日(木)には、ベトナム仏教研究の方向性に関して包括的意見交換を行った。これまでの研究の現状について議論し、今後の方針について種々の提案がなされた。出席者は、織田顕祐・浅見直一郎（研究員）・箕浦暁雄・桃木至朗（大阪大学大学院教授）・福島重（龍谷大学研究員）の五名であった。

2015年3月12日(木)～3月17日(火)の間、織田顕祐と箕浦暁雄は、現地調査のため訪越した。まず、ハノイのベトナム社会科学アカデミー宗教研究院にて、ベトナム・日本双方における「仏教概説」の進捗状況について議論した。その後、織田、箕浦、大西和彦（嘱託研究員）、グエン・ヒュー・スー（ベトナム社会科学アカデミー宗教研究院研究員）の四名でバクザン省普陀寺とハイズオン省安寧寺を調査した。とくに両寺院の歴史と当該寺院に保管される仏典の版木に関する聞き取り調査を行ったうえで、実際に閲覧・調査した。また、ハイズオン省青梅寺にある陳朝ベトナムの禅宗・竹林派第二祖の法螺禪師の碑「青梅円通塔碑」、ハイズオン省瓊林寺、ドーソン（塗山）市の祥龍塔寺をも視察・調査した。なお、祥龍塔寺にはベトナム最初期・李朝時代のアショカ王塔（祥龍塔）建立伝承がある。塔跡に「李家第三帝龍瑞太平四年制」という年紀の入った煉瓦が散乱しており、その事実を確認するなどした。また、今回の訪越では、タンロン大学日本語学科を訪問した。さらに、織田と大西はハノイ人文社会科学大学でフィー（潘梨輝）先生と懇談した。ベトナムにおける学問の現状と今後の学術振興のための情報収集・意見交換を行うことができた。

## 執筆者紹介

- Robert F. Rhodes 2015年度指定研究(国際仏教研究) 研究員・本学教授  
Michael J. Conway 2015年度指定研究(国際仏教研究) 研究員・本学講師  
井上 尚実 2015年度指定研究(国際仏教研究) 研究代表者・本学准教授  
西尾 浩二 2013年度一般研究(西尾班) 研究代表者・本学非常勤講師  
渡部 洋 2013年度一般研究(渡部班) 研究代表者・本学准教授  
飯田 剛史 2014年度一般研究(飯田班) 研究代表者・本学特任教授  
井上 摩紀 2014年度一般研究(井上班) 研究代表者・本学准教授  
星野 聡子 2014年度一般研究(井上班) 共同執筆者・奈良女子大学大学院准教授  
小森 康加 2014年度一般研究(井上班) 共同執筆者・大阪国際大学准教授  
上田早記子 2015年度一般研究(上田班) 研究代表者・本学任期制助教  
小谷信千代 2015年度一般研究(小谷班) 研究代表者・本学名誉教授  
秋本 勝 2015年度一般研究(小谷班) 協同研究員・京都女子大学教授  
上野 牧生 2015年度一般研究(小谷班) 協同研究員・本学短期大学部助教  
加納 和雄 2015年度一般研究(小谷班) 協同研究員・高野山大学准教授  
福田 琢 2015年度一般研究(小谷班) 協同研究員・同朋大学教授  
本庄 良文 2015年度一般研究(小谷班) 協同研究員・佛教大学教授  
松下 俊英 2015年度一般研究(小谷班) 協同研究員・本学非常勤講師  
松田 和信 2015年度一般研究(小谷班) 協同研究員・佛教大学教授  
箕浦 暁雄 2015年度一般研究(小谷班) 協同研究員・本学准教授